



Hi! ほうい



岩手大学

岩手大学広報誌
IWATE UNIVERSITY

vol.37 SUMMER
2017.8

INDEX

- P1…まちづくりサークル NPCN ● 学生ので盛岡を盛り上げる!! 笑顔の街角プロジェクト
 - P2…研究紹介 ● 地域×世界 GLOCALな防災学を目指して 人文社会科学部 教授 松岡勝実
 - P3…キャンパスライフ ● 柔道部 ● 将棋部
 - P4…センパイ紹介!! ほか ● 小学校教諭 盛岡市立青山小学校 及川光代さん
- TOPICS ● NTTドコモ吉澤社長が在学学生とディスカッション ほか Information ● 基金のご案内 ほか

地域で活躍する岩大生を、
私たちが取材しました!

学生ので盛岡を盛り上げる!!



広報室学生スタッフ
人文社会科学部3年 浅沼 希水(左)
人文社会科学部3年 田代 華奈子(右)

まちづくりサークルNPCN 笑顔の街角プロジェクト

岩手大学まちづくりサークルNPCN (NPCN: New Power Creative Network)



7月10日、クロステラス盛岡前の「響演!さんさ男子」が完成!

2010年、人文社会科学部の学生の卒業論文の一環として活動をスタート。翌年からサークルとして活動を開始し7年目の今年は、20名で活動しています。まちづくりに関するプロジェクトを学生や学内外の団体と連携しながら行うことで、若者の「新しい力」を引き出し、まちに貢献することが活動の目的。

盛岡さんさ踊りでの「笑顔の街角プロジェクト」を活動の中心に据え、過去には「うえだっしょ!!」「でんでんむしぐるぐる盛岡」等の情報誌や、盛岡駅前商店街「開運マップ」の作成などを行いました。



▲街角の素敵な笑顔を撮影!



▲ポスターの設置作業

笑顔の街角プロジェクト

Q 「笑顔の街角プロジェクト」とはどのような活動ですか?

盛岡市では毎年8月に「盛岡さんさ踊り」が行われます。盛岡さんさ踊りの季節が来たことを表現し、街角から盛り上げるために、人々の笑顔のポスターやイルミネーションの設置を行っています。2014年からはさんさ踊りで輝く男性を参加団体から募集し、ポスターを作成する「響演!さんさ男子」という企画も始めました。

Q 笑顔の街角プロジェクトの見どころはなんですか?

プロジェクトのきっかけとなった北日本銀行の「笑顔の街角」展示がメインとなりますが、さんさ男子の企画も楽しみにしてくださっている方や応募してくださる方がたくさんいます。ぜひさんさ踊りの展示を楽しみにしてください!

Q やりがいや楽しかったことを教えてください!

吉田: 笑顔の街角プロジェクトの担当をしています。普段は市民の方と関わる機会がないので、写真を撮りに行って話すことが楽しいです。
川上: ポスターや広報誌を作成する機会はなかなかないと思うので、自分が作ったものが残ることに達成感を感じます。
佐藤: 去年初めて街角プロジェクトにイルミネーションを使用したのですが、できたら良いなと思っていて悩みながら考えたものが実現した時に達成感を感じました。活動に対していろいろな反響もありました。「あれを見るとさんさの時期が来たんだなと思う」と言っていた時、プロジェクトの目的が達成されたな、と感じ嬉しくなります。

Q 今後の活動にける願いはなんですか?

今年、盛岡さんさ踊りは40回目を迎えます。アニバーサリー企画や、昔の写真やポスターを使ってさんさ踊りの歴史を振り返るような企画を予定しています。今後も活動を継続して、さらに市民の方たちに定着して欲しいです。まず、10年の継続が目標です。50年後ぐらいまで続いていたら素敵ですし、長く続いてほしいと思います。

Q 大学進学を目指す皆さんへ、メッセージをお願いします!

岩手大学に入学し、まちづくりサークルNPCNに入って盛岡市の魅力をたくさん知りました。県内から進学を目指す皆さんには、もっと岩手や盛岡を好きになってもらえたらと思います。また、岩手県外から入学した学生のおかげで、新しい魅力を発見することもあります。これから岩手大学に入学するみなさんと一緒に、さんさ踊りを盛り上げていける日を楽しみにしています!



▲40回目の節目を盛り上げる!
北日本銀行大通支店前の「笑顔の街角」展示



取材にご協力いただいた皆さん

人文社会科学部人間文化課程2年 吉田杏奈さん(左)
人文社会科学部法学経済課程3年 佐藤杏菜さん(中央)
教育学部生涯教育課程3年 川上葵さん(右)



「笑顔の街角プロジェクト」
Facebookはこちら



「響演!さんさ男子2017」
twitterはこちら

「地域×世界

GLOCALな防災学を目指して」



人文社会科学部 地域政策課程

教授 松岡 勝実

昨年から今年にかけて、本学よりカナダとアメリカの大学に派遣されました(各々3か月と8か月)。研究テーマについては後述べることにして、その期間の活動を中心的に報告することにします。

1 カナダ・サスカチュワン大学―改革者たれー

サスカチュワン大学はカナダ・サスカチュワン州にある州立大学です。同大学の「教育効果に関する研究センター」で研修を受けながら防災関係の研究に従事しました。

センターの受講生は若手大学教員が中心です。受講生、研修講師の専門分野はさまざまです。研修の内容は実践的でした。「プレゼンテーション力の向上」「学生への質問戦略」「メールの書き方と対応」「学生との「ミニコミュニケーション」「同僚教員との連携」「課題解決能力の開発」「成績評価の哲学」「創造的思考の強化」「IT技術と教育との関係」など。

実際の授業を聴講してみました。工学部のある授業では、架空のIT系多国籍企業の事例問題を素材にした、組織運営のシミュレーションが行われていました。大人数、大教室の授業でしたが、臨機応変にグループを作り議論、そして全体で議論するという繰り返しで躍動的に授業が進行します(写真1)。

短い滞在期間でしたが、情報を「共有」しつつ、異なる規格であっても「連携」を模索し、「創造性・革新性」を育む教育・学問を指向し、そして「フィードバック」を通じ

て常にシステムの改革に取り組む、そうした大の意気込み、進取の気質を肌で感じる事ができました。そうした学風・文化に、私は近年関心をもち続けている「法と政策」「災害復興まちづくり」の研究姿勢にチャレンジングな刺激を与えられました。



写真1 工学部の授業風景

2 アメリカ・ハーバード大学―Ask What You Can Do―

続いて、アメリカ・ボストンにあるハーバード大学で学ぶことになりました(写真2)。同大には公共政策大学院(Harvard Kennedy School: HKS)へ研究員として赴任いたしました。HKSは11もの研究センターが付属しており研究員だけでも数百名を抱えている、大規模の大学院です。

初任者研修では、ハーバード大が重視する研究アプローチの紹介がありました。「学際的研究」「緊張感をもった実務との連携」「国際的視野の充実」「公共政策の重視」「学生主導の研究環境」がハーバード流です。

HKSのキャンパス・HPには、「ASK What You Can Do」という旗印があちこちに掲げられています。「君は何ができるのかそれを問え」です。キャンパスのカフェテリアでは、早朝から学生たちが集まって独自のプロジェクトや授業準備のため、グループ学修をしております(写真3)。カナダで学んだ教育効果の哲学は、ここでは自明の理として、学生サイドに立った自律的・協働的教育方式に発展しています。この観点から教務システムは簡素化され、ペーパーレスが徹底し、IT環境が整って



写真2 ハーバード大・キャンパスの校舎

いる一方、フェイス・ツー・フェイスの教育も充実しています。教室は教壇を取り囲むようにしてテーブルが配列され、質疑応答で授業が進みます。教務上の縛りはゆるやかで、学内をはじめ近隣大学の科目も自由に聴講できます。私は法科大学院の授業、ライシャワー日本文化センターの授業なども聴講してみました。



写真3 HKSメイン校舎での朝の学修風景

3 連携、グローバルキャンパス、そして国連へ

ボストンに滞在中、岩手大学の岩淵学長をはじめとした代表団が訪問する機会があり、アテンドいたしました。今回はハーバード大学本部事務局(University Marshal)の公式な招へいとして、副総長が対応して下さり公式訪問者署名簿に署名することもできました(写真4)。そして、東日本大震災以後進んでいる危機管理プログラム等の連携強化、災害デジタル・アーカイブスに関する学術情報の交換など将来に向けた交渉が行なわれました。

さつそく今夏8月には、ハーバード大学生と若大生が学び合う「グローバルセミナー」が、「陸前高田グローバルキャンパス」(RTGC)で実施されます。RTGCは、立教大学と共同で本年4月に開設した、陸前高田市にある岩大のサテライトキャンパスです。防災・復興の学びの場として、また地域と世界を結ぶグローバル(グローバルとローカル(ローバル)の造語)な情報発信・交流拠点としての役割を担っています。

本年5月にメキシコ・カンクーンで開催された2017年国連防災

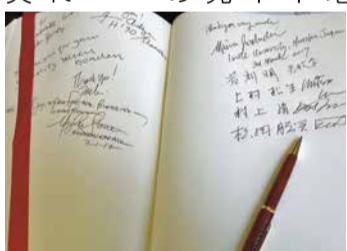


写真4 ハーバード大学公式訪問者署名簿

会議では、このグローバルな人材育成を目指すRTGCの意義と、被災地の「より良き復興」(Build Back Better)のための岩大のこれまでの取組について、大学の公式声明を代表として発表させていただきました(写真5)。



写真5 Iwate University : Official statement at the Global platform for Disaster Risk Reduction 2017 (https://youtu.be/N3y2N7Ghz8k)

4 専門力×学際力×活動力=広く知って、動きを見て、深く掘る

さて、研究テーマですが、もともと法律学、民法を専門として、イギリス水法(水を利用する権利)で博士号を取得し、その研究に基づいて世界の水資源、水の国際取引に研究分野を進め、続いて消費者問題、特に貸金の社会的問題を消費者の経済的災害と捉え、消費者市民社会の意義とネットワークに関心を広げました。東日本大震災後は、被災地に何(こ)が多くなり、防災や復興まちづくりに関心をもつようになりました。このように1つのテーマを追い続けてきたというよりは、関連性を持たせながらも発展的、学際的な研究をしてきたと言えます(写真6)。テーマを絞ってコツコツと長い期間研究を進めてきたわけではないので、マイナ斯的にみる識者もいるかもしれません。しかしながら、グローバル化と知の進化が急速に進む現代にあって、専門力を起点としつつも、広い視野をもち、学際的アプローチで、現場感覚(実務)との掛け算的研究も有用ではないでしょうか。法学と政策学、公共政策、組織論、行動心理学等の融合を指向しつつ、「防災・復興におけるまちづくりと創造」が現在の研究テーマです。紙幅の関係で研究テーマの提示にとどまったことをお許し下さい。



写真6 「水資源・環境研究の現在」共同執筆、「法と経済学」共訳、「債権総論-各論」等単著、「消費者市民社会」[災害復興の法と法書]「Asian Law and Disasters」編著

柔道部

中学校では、日本の伝統と文化を尊重するという観点から、平成24年度より武道が必修となりました。今回は武道の中でも、海外でも人気の高い「柔道」を取り上げます。岩手大学の柔道部は、たいどんなサークルなのか。実際に話を伺ってきま



取材に協力してくれた狩野さん(左)、田中さん(中央)、菊地さん(右)

せる場が持てたということはいいことだったと思います。

柔道部のアピールポイントは?

狩野: アットホームな活動だということです。厳しい練習をするわけではないので、気軽に始めることが出来ると思います。

菊地: オン・オフがはっきりしているところだと思います。大会前にはきつい練習もありますが、しっかり柔道に取り組みたいという人も、柔道に打ち込むことが出来ます。

田中: 週3日の練習なので、兼部したりバイトをしたりと自分の時間を持つこともできます。

今後、柔道部が目指すものは?

田中: 認知度を上げることが一番の目標です。部員が増えてよりにぎやかに活動できるといいです。

菊地: ケガなく、大会に楽しく参加することも大切にしていきたいです。そこに結果が付いてくるとな

柔道というと、堅苦しい・厳しいというイメージが強かったのですが、今回の取材を通じて『柔道部』はそのようなイメージの真逆だと肌で感じました。競技としての柔道に打ち込みたい人から、気軽に柔道に触れたいという人まで楽しめる部活動。今後の更なる活躍に期待です。

田中: 最初は柔軟などの準備を行い、次に基本動作(寝技・立ち技)を練習し、仕上げに乱取りを行います。学年に関係なく組み合えるので、先輩からのアドバイスなどももらうことが出来ます。

柔道部の目標は?
菊地: 大会で好成績を求める勝利至上主義ではなく、柔道を通じて健康な体作りをするを一番の目標にしています。

入部のきっかけは?

田中: 中高は剣道をやっていたのですが、大学では違う武道にも触れてみたいと思っていました。様々なサークルを回る中で、雰囲気良く、初心者へもしっかり指導することだったので入部しました。

狩野: 高校から柔道をやっていたということもありますが、同じ高校の先輩がいたということも大きな決め手でした。

菊地: 健康維持ですね。やはり、大学にいるとなかなか体を動かす時間がないので。

入部してよかったことは?

田中: 痩せたことですかね。大学受験期に大きく体重が増えてしまったので。

狩野: クラスなどが無い大学で、いろいろな人と話



練習中の様子



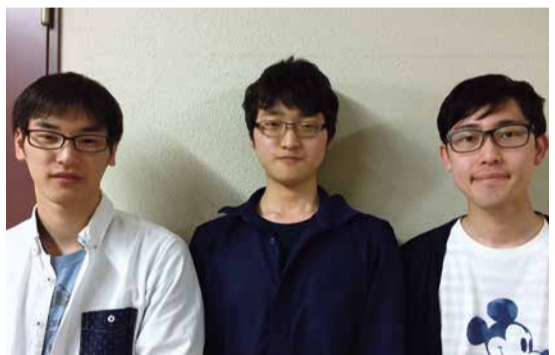
インタビューしました!
広報室学生スタッフ
人文社会科学部3年 高梨 翔太

取材にご協力いただいた皆さん(学年は取材当時)

- 部長 農学部3年 田中 雅人
- (宮城東古川黎明高等学校出身)
- 人文社会科学部4年 菊地 光
- (宮城東東北学院高等学校出身)
- 農学部2年 狩野 真吾
- (宮城東東北学院高等学校出身)

将棋部

14歳の藤井聡太四段の活躍で今話題になった将棋。岩手大学にもその将棋に取り組み将棋部があります。今回は将棋部の活動の裏側に迫りま



取材に協力してくれた玉川さん(左)、齋藤さん(中央)、三橋さん(右)

実際に入部してみて良かったと思うことは?

三橋: 他大学の学生と仲良くなれる機会が多いことです。高校のときは違って、大会が終わった後、他大学と一緒に打ち上げをしたりすることもありません!

齋藤: いろいろな人がいておもしろいです。たくさんの視点を手に入れることができたと思います。人間関係の点でも参考になることが多いです。

玉川: 高校までは将棋を趣味として取り組んでいましたが、大学では部活動として取り組み始めました。いろいろな戦法について知ることができ、知識を深められたと思います。

将棋部の今後の展望、後輩に期待することは?

三橋: 団体戦で二位以上になることです!

齋藤・玉川: 棋力向上と、部員全員予選突破です!

インタビューを通し、将棋部は部員同士の仲が良く、互いに高め合っている部であると感じました。個人戦・団体戦ともに、部・個人の目標を達成できるようにこれからも頑張ってください!応援しています。

田中: 高校から将棋を始めました。はまっていたので大学でも続けたいと思って入りました。

普及はどのように練習を?

三橋: メインは対局なのですが、特に1年生など大学から将棋を始めた人にはハンデをつけてやりますね。実力が同じときは平手でやって、対局終了後に悪いところを検討する感じです。

将棋部のアピールポイントは?

三橋: 24人いる部員みんな、先輩・後輩関係なく仲がよいことです!

齋藤: 同じ戦法同士で、戦法について交流することが多いことです。

将棋部の目標は?

三橋: 部全体の目標としては、各大会で上位に入賞することです。春と秋に、全国大会につながる大会があり、それぞれ東京と、三重県四日市市で行われます。個人の目標としては、個人戦の予選を突破することです。

齋藤・玉川: 全国大会に出場することです!



部員同士の対局



インタビューしました!
広報室学生スタッフ
教育学部2年 沼崎 悠華
農学部2年 松本 菜々子

取材にご協力頂いた皆さん(学年は取材当時)

- 教育学部4年 三橋 孝甫
- (青森県五所川原高校出身)
- 工学部3年 齋藤 歩
- (岩手県水沢高校出身)
- 理工学部2年 玉川 雅実
- (福島県会津高校出身)

TOPICS トピックス

NTTドコモ吉澤社長が在学生とディスカッション

5月27日(土)に開催された第68回岩手大学開学記念行事の一つとして、「岩手大学生へのメッセージ」と題し、工学部卒業生で株式会社NTTドコモ代表取締役社長の吉澤和弘氏、岩淵明学長、3名の岩手大学生によるフリーディスカッションが行われました。学生から投げかけられた「組織のトップとして働くとはどのようなことか」「リーダーシップとは」といった質問に対し、吉澤氏からは学生時代の出来事や、経営者としてのご自身の経験を踏まえ回答がなされたほか、「やさしさだけではなく強さをもってほしい」という岩手大学生へのメッセージが送られました。



(左から) 岩淵学長、吉澤社長、学生の照井さん、町田さん、大村さん

陸上競技部男子が東北インカレ総合優勝!

5月13日から15日に開催された第70回東北学生陸上競技対校選手権大会で、陸上競技部が男子総合優勝を果たしました!トラック競技では400m、800m、1500m、10000m競歩のそれぞれで第1位を獲得し、フィールド競技でも棒高跳びの第1位をはじめ、活躍が光りました。



大会後の陸上競技部集合写真

Introduction to a senior

センパイ 紹介!!

OG-INTERVIEW インタビュー

第34回



小学校教諭 PROFILE

おいかわ みつよ 及川 光代さん

岩手県一関市出身
平成28年3月 教育学部学校教育
教育教員養成課程 卒業
盛岡市立青山小学校 教諭

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

大学時代にたくさんの人と出会ったことが思い出です。寮生活やアルバイトなど初めてのことが沢山ありました。他にも部活をしたり色々なボランティア活動をしたりしました。日本各地に旅行にも行きました。様々な活動を通して、たくさんの人と出会いました。卒業してもつながりがあって私を支えてくれています。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

小学6年生の時に担任だった先生に出会ったことがきっかけです。その先生は子どもの心に寄り添い、私が辛い思いをしているときに助けてくれました。「こんな先生になりたい!」と思い、それからずっと小学校の教員を目指してきました。ようやくその願いを成就することができました。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

朝早くから夜遅くまで働き、大変ではありますが、毎日充実して仕事をしています。職場の先生方は優しくたくさんのことを学んでいます。何より子どもがとても可愛いです。子どもたちは大人が思いつかないような発見をするので、新鮮で楽しい毎日を過ごしています。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

大学時代しかできないことがたくさんあります。いろいろな活動に挑戦してたくさん経験を積んでいってください。



Information

岩手大学イーハトーヴ基金のご案内

岩手大学は、多くの皆様からご協力いただいた「岩手大学学生支援基金」「岩手大学被災学生支援募金」等を引き継ぎ、「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設しました。本基金は、本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、東日本大震災により被害に遭った学生たちへの修学支援など、用途を特定した「特定基金」で構成されます。

最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法については、お手数ですが、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。



岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ:
<http://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>

【お問い合わせ】岩手大学総務部総務広報課(平日午前9時~午後5時)
〒020-8550 盛岡市上田3-18-8
TEL:019-621-6006 FAX:019-621-6014

テレビ番組「がんばれ! がんちゃんⅣ」放送のお知らせ

岩手大学紹介番組「がんばれ! がんちゃんⅣ」を放送します。
日時:平成29年9月2日(土) 16:25~16:55
放送局:テレビ岩手(デジタル4チャンネル)
放送後には「岩手大学公式Youtubeチャンネル」に番組を掲載する予定です。岩手県外の方も是非ご覧ください!

行事予定

■平成29年度オープンキャンパス
第1回 8月9日(水)
第2回 10月21日(土)
※第2回は不來方祭(大学祭)と同時開催
【お問い合わせ】入試課 TEL:019-621-6064

岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Facebook、YouTube、学長Twitterを更新中! Facebookには、広報室学生スタッフが取材した記事も掲載しています。ぜひ覗いてみてください。



岩手大学公式Facebook:
<https://www.facebook.com/iwate.u>

岩手大学公式YouTubeチャンネル:
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩淵学長Twitter:
https://twitter.com/iwate_u_ai2016

Hi! 岩手大学
岩手大学広報誌 vol.37 SUMMER
IWATE UNIVERSITY 2017.8

編集後記

松岡先生が紹介された、カナダ・サスカチュワン大学から、本年2月から5月にかけて、Chary Rangacharyulu 教授と Karen Tanino 教授が学術振興会の招へいプログラムで滞在されました。滞在中に、学長からグローバルフェローの称号を授与され、英語の授業やセミナー、学生、教職員との交流も行って頂きました。本学が世界中からさまざまな人が集まる大学になるためには、英語授業の実施などの課題に本気で向き合う必要があるのかも知れません。

Hi! こちら岩手大学 vol.37

岩手大学広報室広報誌専門部会
2017年8月 発行
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <http://www.iwate-u.ac.jp/>
本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。